

第三セクターの経営情報について

報告対象団体		ハートランド平尾台株式会社
会社概要	会 社 の 事 業 概 要	1 遊園地及びテーマパークの経営 2 宿泊施設、観光果樹園等の観光関連施設の経営 3 イベントの企画及び運営に関する事業 4 旅行業法に基づく旅行業 ほか
	資 本 金 額	91,200 千円
	本市の出資割合	24.18 %
	従 業 員 数	9 人
営 業 報 告 の 要 点		令和6年度は、宮崎牛グランドチャンピオン農家直営レストランの導入のほか、チョークで自由に絵を書ける「落書きエリア」や平尾台アスレの遊具増設、7月から9月中旬にかけての土曜日、日曜日に実施した「早朝・夕暮れドッグラン」など、利用者サービスの向上に取り組んだ。 利用者数は 234,663 人で、3年連続で20万人を超えたが、前年度に比べ 23,903 人減少(▲9, 2%)した。 営業費については、原油価格の高騰による諸物価の上昇や、商品の仕入費等の経費が上昇したことにより、増加した。 この結果、利益率が減少し、当期純利益も赤字となった。
収支状況 の 要 点	当 期 純 利 益	▲14,005 千円
	前年度との比較	○営業利益は、▲13,139千円 【前期比 1,204千円(8 %)増】 ○経常利益は、▲13,652 千円 【前期比 6,379 千円(87.7%)減】 ○当期純利益は、▲14,005 千円 【前期比 6,568 千円(88.3%)減】
	その他 (剰余金・欠損金、設備 投資、資金調達など)	平尾台アスレの遊具増設やらがきエリアの整備等に、13,830 千円投資した。

(令和 7 年 3 月 31 日現在)

ハートランド平尾台株式会社の経営情報について

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

1 株式会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果

ア 事業の経過

当社は、「平尾台の自然環境保全及び平尾台上住民の生活並びに産業活動の均衡ある発展に貢献するとともに、都市及び近郊住民が心身ともにリフレッシュできる場を提供する。」ことを設立の目的にしています。

主たる事業として、北九州市の「北九州市平尾台自然の郷（以下「ソラランド」という。）」及び福岡県の「福岡県平尾台自然観察センター（以下「センター」という。）」の指定管理業務を受託しています。なお、令和6年度は、ソラランドが4回目の受託契約(令和6年度までの6年間)中の6年目、センターが5回目の受託契約(5年間)中の3年目となりました。

令和6年度は、ソラランドの入園者や売上げの増加傾向を一層加速させるため、4月に宮崎牛ブランドチャンピオン農家直営のレストランを導入しメニューを一新することで、食の魅力を強化しました。

新たな施設として、4月にはチョークで自由に絵を書ける「らくがきエリア」の新設、9月には令和5年度にオープンした平尾台アスレに落差6mの遊具「チューブスライダー」が新登場するとともに、愛犬家のニーズに応えるため、7月から9月中旬の土曜・日曜の利用時間を延長した「早朝・夕暮れドッグラン」を実施するなど、利用者サービスの向上に取り組んでまいりました。

さらに、新たな観光客を呼び込むため、4月に「メディア関係者向けツアー体験会」開催のほか、5月には小倉駅発着のバスツアー「食と体験平尾台満喫ツアー」の実施、9月には、北九州市国内観光客等誘致促進協議会主催の旅行会社セールスに参加し、広島・岡山・高松・福山の4都市で商談会やエージェントセールスを行うとともに、約40団体の事業者が加盟する「西日本旅行ネットワークの会」や「旅行業登録」を活かした取組みも進めました。

一方で、原油価格の高騰による諸物価の上昇により、電気料金をはじめとした公共料金や燃料費、商品の仕入費などの経費が増加しています。また、開園以来20年以上経過した設備や施設の修繕にかかる経費が増加しています。

このように厳しい状況が続く中、当社は集客のための積極的な設備投資を行うと同時に、運営経費の節減にも取り組んでまいりましたが、例年に比べて天候不順等による臨時休園が多かったことに加え、これまでソラランドで開催していた「平尾台観光まつり」が^{ふもと}麓開催となり、「ふゆはなび」の開催も終了するなど、大きな集客が見込めたイベントがなくなったことから、残念ながら令和6年度は、2期連続の赤字決算となりました。

イ 事業の成果

(ア) 入園・入館者数

① ソラランド

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入園者数	147,970 人	211,652 人	258,566 人	234,663 人
コロナ禍前（令和元年度）との比較	▲41,305 人	22,377 人	69,291 人	45,388 人
	78.2%	111.8%	136.6%	123.9%

（参考）令和元年度 189,275 人

令和6年度の入園者数は234,663人で、3年連続で20万人を超えるとともに、コロナ禍前の令和元年度との比較でも45,388人増加(123.9%)しています。

新たな施設の整備に加え、ペルセウス座流星群観察会(8月)やお月見会(9月)など自然を活かした夜間イベントの実施、平日の園内移動手段として有料のランドカー(ゴルフカート)2台を運行し、幼児等が楽しめるコンテンツとしてバッテリーカーの導入や家族で楽しめるパークゴルフ場の運用など自主事業の強化を回るとともに、利用者の負担軽減と新規リピーター獲得のため、きたぼっぼなどの割引特典が受けられる「ソラランド友の会(フレンド会員)」を創設するなど、多様な集客・サービスの取り組みを行ってきたことで令和6年度も入園者数の増加傾向を維持しましたが、令和5年度と比較すると、23,903人減となりました。

② センター

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入館者数	15,785 人	22,212 人	11,624 人	0
コロナ禍前（令和元年度）との比較	▲18,413 人	▲11,986 人	▲22,574 人	0
	46.2%	65.0%	34.0%	0

（参考）令和元年度 34,198 人

令和5年度に開館した4月～8月までの入館者数は11,624人と、目標としていたコロナ禍以前には及ばないものの前年度4月～8月と同水準(67人増)でした。令和5年9月から令和7年4月までリニューアル工事のため休館、令和6年度の入館者数はゼロとなりましたが、令和7年5月17日のリニューアルオープンにより、入館者数増が期待されます。

(イ) 売上高（ソラランド＋センター）

（単位：千円。税抜）

区 分		令和３年度 (2021年度)	令和４年度 (2022年度)	令和５年度 (2023年度)	令和６年度 (2024年度)
ソラランド	指定管理受託収入（市）	143,199	143,203	144,100	148,944
	事業収入	37,745	48,776	54,293	45,070
	市指定管理事業収入	20,846	26,634	18,885	16,180
	自主事業収入	16,899	22,142	35,408	28,890
	小 計	180,944	191,979	198,393	194,014
センター	指定管理受託収入（県）	24,435	24,545	24,545	25,707
	その他収入	29	132	139	20
	小 計	24,464	24,677	24,684	25,727
合 計		205,408	216,656	223,077	219,741
前年度との比較（千円）		5,577	11,248	6,421	▲3,336
コロナ禍前（令和元年度）との比較（千円）		▲4,276	6,972	13,393	10,057

（参考）令和元年度 209,684千円

令和６年度の売上高の合計は219,741千円で、令和５年度よりも3,336千円の減となったものの、コロナ禍前の令和元年度と比べると10,057千円の増となりました。

主な要因は、ソラランドの入園者の減少に伴い、市指定管理事業収入では駐車場の利用者の減少や、例年に比べて天候不順等による臨時休園が多かったことに加え、「平尾台観光まつり」が^{ひもと}開催となり、「ふゆはなび」の開催も終了するなど、大きな集客が見込めたイベントがなくなったことから、自主事業収入も減少したものです。

今後も、一日中遊べる公園としての魅力を高めるとともに新たな売れ筋商品を提供することで売上高の増加を図ってまいります。

(ウ) 委託事業の売上状況

（単位：千円。税込）

区 分	令和３年度 (2021年度)	令和４年度 (2022年度)	令和５年度 (2023年度)	令和６年度 (2024年度)	備 考
F C K	42,361	43,378	37,446	令和６年１月末業務終了	レストラン、グランピング
山のとらや			令和６年４月 オープン	15,636	レストラン
平尾台テラス	令和４年９月 オープン	8,671	15,947	13,162	ドッグラン、RVパーク、カフェ
合計	42,361	52,049	53,393	28,798	

※ F C K・・・FOREST CAMP KOKURA（グランピング、レストランの委託事業者）

レストランとグランピング事業を委託していたF C Kが令和６年１月に業務終了した後、平尾台テラスを経営する委託事業者が宮崎牛をメインにした個性あるレストランを令和６年４月にリニューアルオープンしました。ドッグランの利用者をレストランに誘導するなど経営の安定化とサービスの向上を図っています。令和６年度の売上額は、山のとらやが15,636千円、平尾台テラスが13,162千円、合計28,798千円で、５年度に比べて24,798千円の減となっています。

(2) 主な実施事業

ア ソラランド

(ア) 新たな取組み

- ・施設整備（平尾台アスレ遊具増設、らくがきエリアの整備）
- ・利用者サービスの向上（飲食部門等の強化、物販の強化、スプリングコンサートin平尾台、ウォーキングラリーの開催、早朝・夕暮れドッグラン、果樹園リニューアル）
- ・観光振興（アクティビティとBBQのツアー開始）
- ・地域との協働（みやこ町との包括連携協定）

(イ) 例年の取組み

- ・PR（インターネット等の活用、アウトリーチ活動）
- ・利用者サービスの向上（開園時間の延長、バッテリーカー）
- ・イベント（ガイド事業・講座、ボランティアの拡充、スポーツ大会、音楽、天体観測、地域との協働、学校教育との連携、菜園・果樹園の活用）
- ・SDGs学習プログラム
- ・西日本旅行ネットワークの会
- ・キャンプ場
- ・植栽管理

イ センター

(ア) 新たな取組み

- ・PR
- ・リニューアル工事への協力
- ・工事対象外の施設の整備

(イ) 例年の取組み

- ・PR
- ・フィールドイベント
- ・フィールド巡視
- ・ガイド
- ・自然保護意識の醸成
- ・人材育成（社員教育、ボランティアの育成）
- ・フィールド・各駐車場の設備
- ・植物保護・研究活動への協力

(3) 設備投資などの状況(令和6年度の主なもの)

(単位：千円。税抜)

主 な 設 備		員数	金額
建 物 等 の 整 備	レストラン改装	一式	委託会社負担
	チューブスライダー等設備	一式	6, 4 8 2
	スプリング遊具増設	3基	6 7 7
	らくがきエリア黑板整備	一式	7 7 3
	園路修繕(きたぽっぽ)	一式	1, 9 6 0
器 具 修 繕 等	きたぽっぽガスボンベ交換	一式	1 5 8
	きたぽっぽ修繕	一式	1 0 3
	音楽堂避雷器版取替工事	一式	1 6 0
	陶工房等外壁修繕工事	一式	1 6 8
その他	乗用草刈機購入	1台	9 8 0
	ソフトクリームサーバー更新	1台	1, 6 6 7
	冬ナイトパーク機具	一式	1 4 9
	B B Q場日除け対策	一式	1 6 7
	ミモザ植樹	一式	3 8 5
計			1 3, 8 2 9

(4) 今後の課題

観光庁は令和7年4月30日、「宿泊旅行統計調査」の2025年3月分第1次速報を発表しました。これによると同月の延べ宿泊者数全体は5, 697万人泊(前年同月比3.4ポイント増)となり、このうち、日本人延べ宿泊者数は4, 193万人泊(同0.5ポイント減)、外国人延べ宿泊者数は1, 504万人泊(同15.9ポイント増)となり、引き続き外国人利用の増加が全体の伸び率を牽引することとなりました。今後も国内はもとよりインバウンドの観光需要が増すことが見込まれています。

一方で、ソラランドの主要な利用者である「子どものいる世帯」の人口減少が見込まれる中、新たな利用者を開拓する必要があります。そのため、当社では、「旅行業登録」を活かして、4月に食の楽しみに加えガイドによる丁寧な説明とおもてなしを盛り込んだシニア向けのバスツアーを実施したところ、お客様から大変好評をいただき、秋の企画ツアーのオーダーもいただいたところです。

こうしたニーズを捉え、「西日本旅行ネットワークの会」と連携したツアーを年間を通じて企画していくなど、平日対策とインバウンドを含めた新たな客層の開拓に努めて参ります。

また、ソラランドについては、「カルスト台地」にあるという強みを活かした取組みや来園者のニーズに沿った施設整備にも引き続き取り組んで参ります。ランニングコストがかからない形のコンテンツの拡充を進めるとともに、増収増益を図ることによって、経営体質の安定と株主様への配当を確保してまいりたいと考えています。

さらに、指定管理業務の一環として、積極的に無料遊具も整備し、市民の憩いの場を充実させてまいります。

センターについては、施設と展示物の大規模改修が完了し、令和7年5月17日にリニューアルオープンしたところであり、今後も平尾台のランドマークとして入館者に親しまれる施設を目指していきます。

当社は、今後ともお客様の満足度の向上と、より一層魅力ある施設とするために、『今日はここ

に来て本当に良かった』とさせていただける公園づくり」を合言葉に、社員一丸となって取り組んでまいります。

ア 令和7年度の取組み

(ア) ソラランドについて

令和7年度は、新たな指定管理期間(令和7～11年度)の初年度であり、指定管理者の公募に際して当社が北九州市に提案した、新たな取組みを着実に実施していく必要があります。なお、施設整備に当たっては、これまで同様、ランニングコストがかからない形でのコンテンツの拡充を進め、増収増益を図ってまいります。主な取組みは以下のとおりで、令和7年度の集客数は、275,100人を目標とします。

① 新たな取組み

- ・施設整備（平尾台アスレの充実、日陰施設の増設、みやこ町寄贈の木材の活用）
- ・利用者サービスの向上（トゥクトゥクの導入、コンテナ・トレーラー等を活用した宿泊施設の検討、飲食・物販部門等の強化、北九州ネイチャーポジティブセンター、手作りイベントの強化）
- ・観光振興（日帰りツアーの企画・実施、スタンプラリーの実施、インバウンド集客）

② 例年の取組み

- ・PR（インターネット等の活用、アウトリーチ活動）
- ・利用者サービスの向上（バッテリーカー）
- ・イベント（ガイド事業・講座、ボランティアの拡充、スポーツ大会、音楽、天体観測、地域との協働、学校教育との連携、菜園、果樹園の活用）
- ・SDGs学習プログラム
- ・西日本旅行ネットワークの会
- ・キャンプ場
- ・植栽管理

(イ) センターについて

令和5年9月から始まった福岡県が進める施設の改修工事が完了し、令和7年5月17日にリニューアルオープンしました。令和7年度は、リニューアルしたセンターを拠点に、これまで以上に平尾台の雄大な自然の素晴らしさを楽しんでいただくとともに、自然保護意識の醸成・啓発・指導を行っていきます。令和7年度の主な事業計画は以下のとおりで、令和7年度の集客数は、45,000人を目標とします。

① 新たな取組み

- ・リニューアルオープン
- ・PR
- ・イベント申込方法の充実
- ・販売品の強化

② 例年の取組み

- ・PR
- ・イベント（登山、観察会、洞窟探検）

- ・パトロール等（フィールド巡視と異常管理）
- ・ガイド
- ・自然保護意識の醸成
- ・人材育成（社員教育、ボランティアの育成）
- ・フィールド・各駐車場の整備
- ・自然保護・研究活動への協力

（５）資金調達の状況 特記事項はありません。

（６）企業結合の状況 子会社等はありません。

（７）主な借入先 該当事項はありません。

（８）営業成績及び財産の状況の推移

期 別 区 分	R4/3 (第 26 期)	R5/3 (第 27 期)	R6/3 (第 28 期)	R7/3 (第 29 期)
売上高（千円）	205,409	216,656	223,077	219,741
経常利益（千円）	7,262	1,448	▲7,273	▲13,652
当期純利益（千円）	5,127	1,546	▲7,437	▲14,005
1 株当たり当期純利益	210 円 85 銭	63 円 57 銭	▲305 円 82 銭	▲575 円 86 銭
純資産（千円）	257,524	259,070	250,416	235,195
総資産（千円）	278,060	272,508	263,468	255,699

【注】 1 株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式数に基づいて算出しています。

2 会社の概況（令和 7 年 3 月 3 1 日現在）

（１）主要な事業内容（定款記載の主な事業内容）

- ・遊園地及びテーマパークの経営
- ・宿泊施設、観光果樹園等の観光関連施設の経営
- ・イベントの企画及び運営に関する事業
- ・旅行業法に基づく旅行業
- ・飲料品・食料品（畜産食料品を含む。）の加工及び製造並びに販売
- ・書籍、衣料品、日用雑貨品、工芸品、民芸品の販売
- ・キャンプ用品、スポーツ用品の販売及びレンタル事業
- ・医薬品、医薬部外品の販売
- ・動植物の販売
- ・公共施設の運営、維持管理(除雪作業、清掃作業、草刈作業等)に関する受託事業
- ・平尾台及びその周辺地域の環境保全、整備に関する事業
- ・自然環境の保全、整備に関するコンサルティング事業

(2)主な事業所

名 称：本社

所在地：北九州市小倉南区平尾台一丁目1番1号

(3)株式の状況

ア 会社が発行する株式の総数 80,000 株

イ 発行済株式の総数 24,320 株

ウ 当期末株主数 27名

エ 株主の状況

株 主 名	所有株式数 (株)	出資比率 (%)	当社の該当株主 の出資状況
北九州市	5,880	24.18	-
UBE 三菱セメント株式会社	4,200	17.27	なし
株式会社 コアーズ	3,080	12.66	なし
三菱重工機械システム株式会社	2,800	11.51	なし
株式会社井筒屋	1,400	5.76	なし
株式会社ピーエス・コンストラクション	1,400	5.76	なし
株式会社西日本シティ銀行	1,000	4.11	なし
住友大阪セメント株式会社	940	3.86	なし
三井住友建設株式会社	840	3.45	なし
株式会社太平設計	360	1.48	なし
株式会社にしけい	280	1.15	なし
株式会社マテリアル九州	180	0.74	なし
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社	180	0.74	なし
株式会社九電工	180	0.74	なし
株式会社三井住友銀行	180	0.74	なし
西華産業株式会社	180	0.74	なし
株式会社みずほ銀行	180	0.74	なし
株式会社乃村工藝社	180	0.74	なし
株式会社三菱UFJ銀行	180	0.74	なし
三菱UFJ信託銀行株式会社	180	0.74	なし
株式会社福山コンサルタント	160	0.66	なし
西日本不動産開発株式会社	60	0.25	なし
明治安田生命保険相互会社	60	0.25	なし
関 宣昭	60	0.25	なし
東京海上日動火災保険株式会社	60	0.25	なし
ニシラク乳業株式会社	60	0.25	なし
九州カード株式会社	60	0.25	なし
計	24,320 株	100%	

(4) 会社役員に関する事項

会社における地位	氏 名	経 歴 等 (※就任時)
代 表 取 締 役	加茂野 秀 一	社長肩書
取 締 役	井 上 保 之	北九州市都市ブランド創造局長
取 締 役	上 村 周 二	北九州市都市戦略局長
取 締 役	三 善 顕	UBE 三菱セメント(株)九州工場事務部長
取 締 役	根 石 紀 雄	(株)ユアーズ 代表取締役社長
取 締 役	木 村 徹 哉	住友大阪セメント(株)小倉事業所業務グループリーダー
取 締 役	壹岐尾 恵 美	Hug 平尾台プロジェクト代表 (株)かいこ代表取締役
監 査 役	岩 男 英 徳	(株)西日本シティ銀行 北九州総本部 執行役員 総本部長
監 査 役	糸 永 卓 見	(株)太平設計 代表取締役

・ 当期中の取締役の異動

ア 辞任

令和6年6月27日の定時株主総会において、取締役の池永紳也氏、石川達郎氏、松本淳氏、が退任いたしました。

イ 就任

令和6年6月27日の定時株主総会において、取締役に井上保之氏、上村周二氏、根石紀雄氏が選任され就任いたしました。

(5) 社員の状況

令和7年3月31日現在

住所地	男性			女性			計
	正社員	嘱託社員	パート社員	正社員	嘱託社員	パート社員	
小倉南区	3	7	8	3	2	6	29 (70.7%)
うち地元(東谷地区)	0	3	3	1	1	3	11
北九州市内 (小倉南区を除く)	2	0	2	1	0	0	5
福岡県内	0	2	3	0	0	2	7
県 外	0	0	0	0	0	0	0
合 計	5	9	13	4	2	8	41

貸 借 対 照 表

令和 7 年 3 月 31 日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	円		円
【流 動 資 産】	【 132,821,309】	【流 動 負 債】	【 16,826,858】
現 金 及 び 預 金	101,227,600	買 掛 金	330,120
売 掛 金	17,531,504	未 払 金	3,030,018
商 品	2,015,773	未 払 費 用	6,247,589
食 材 品	21,357	預 り 金	657,031
貯 蔵 品	351,711	未 払 法 人 税 等	328,500
焼 酎	2,192,386	未 払 消 費 税	6,233,600
前 払 費 用	597,786	【引 当 金】	【 3,676,923】
立 替 金	62,629	賞 与 引 当 金	3,676,923
仮 払 金	27		
未 収 入 金	5,620,536	負 債 の 部 合 計	20,503,781
保 証 金	3,200,000	純 資 産 の 部	
【固 定 資 産】	【 122,878,089】	【株 主 資 本】	【 235,195,617】
(有 形 固 定 資 産)	(122,586,889)	(資 本 金)	(91,200,000)
建 物	5,282,171	資 本 金	91,200,000
建 物 付 属 設 備	4,344,065	(資 本 剰 余 金)	(73,837,619)
構 築 物	49,114,188	資 本 準 備 金	22,800,000
車 輛 運 搬 具	8	そ の 他 資 本 剰 余 金	51,037,619
工 具 器 具 備 品	9,553,075	(利 益 剰 余 金)	(70,157,998)
一 括 償 却 資 産	465,978	繰 越 利 益 剰 余 金	70,157,998
土 地	53,827,404		
(無 形 固 定 資 産)	(291,200)	純 資 産 の 部 合 計	235,195,617
電 話 加 入 権	291,200	負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	255,699,398
資 産 の 部 合 計	255,699,398		

損 益 計 算 書

自 令和 6 年 4 月 1 日
至 令和 7 年 3 月 31 日

科 目	金 額	円
【純 売 上 高】		
売 上 高	219,741,514	219,741,514
【売 上 原 価】		
期 首 棚 卸 高	4,132,284	
当期製品製造原価	9,297,087	
合 計	(13,429,371)	
期 末 棚 卸 高	4,120,753	9,308,618
売 上 総 利 益		(210,432,896)
【販売費及び一般管理費】		223,572,095
営 業 損 失		(13,139,199)
【営 業 外 収 益】		
受 取 利 息	79	
雑 収 入	6,030,646	6,030,725
【営 業 外 費 用】		
雑 損 失	6,543,541	6,543,541
経 常 損 失		(13,652,015)
税引前当期純損失		(13,652,015)
法人税、住民税及び事業税		353,111
当 期 純 損 失		(14,005,126)